

平成 21 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

昭和 42 年から続いているこの事業は延べ 318,378 会場で 70,791,779 台の自転車を点検しました。

当協会は自転車安全・環境対策推進事業の一つとして「自転車安全点検全国普及活動」事業を行いました。この事業は使用過程にある自転車の点検促進を図るため日本自転車軽自動車商協同組合連合会傘下の都道府県自転車商協同組合と連携して、自転車技士・自転車組立整備士・自転車安全整備士の資格を有する組合員の協力を得て、全国 45 都道府県において安全点検や安全点検講習会の会場で実施されました。

平成 21 年度は全国で使用過程にある自転車の 529,094 台を 3,519 会場で点検し、自転車利用者に対して点検整備励行と乗用安全意識の高揚を図り、自転車安全利用促進、自転車事故防止に取り組みました。

自転車安全点検全国普及活動（平成 21 年度）

「拠点型安全点検」 学校、警察、地方公共団体等からの要望を受け行います。

学校、警察や地方公共団体等からの要請を受け協力して実施。延 2,655 の学校、178 の公共施設などで行われました。

通学車については学校の取組みにより状況が異なる結果になります。“整備不良車がこんなに多いとは思わなかった”という所見があるかと思えば、“最近は学校や保護者の理解が多くなって、ほとんど整備良好車だった”という所見もありました。“最近は地区に自転車店がないので点検をしていない自転車が多い”という状況も会場別報告書に記入されていました。

しかし、安全走行意識の高まりは確実に広がりを見せています。街頭での安全点検に駆り出された地方公共団体職員が自転車で走行している人を呼び止めて点検を勧めることから、整備された自転車への取組みは関係者により積極的に行われています。

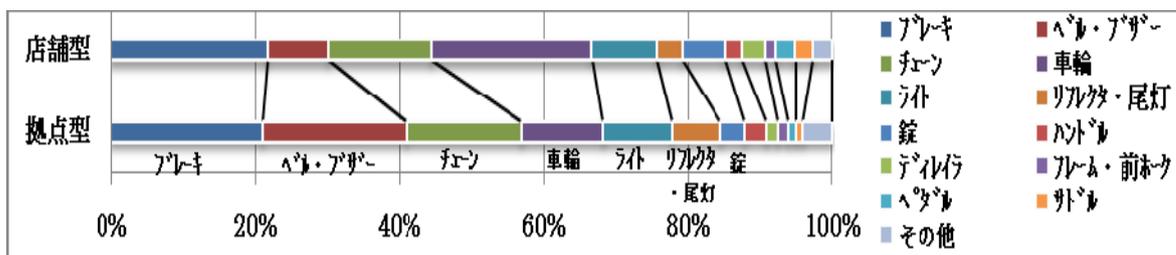
「店舗型安全点検」 自転車小売店で行います。

延 1,255 の自転車店が地域社会に密着した販売店として地域活性化を図りました。自転車店での点検を希望して出向いて来る人は安全に対する意識が高く比較的整備された自転車に乗車しているようです。店主の積極的な取組の一例として、来店した客と一緒に点検し、修理を促す理想的な点検も試みられています。来客は指導を受けながら要整備箇所の見極めを学び、納得した修理の依頼ができます。

会場別報告書による現状はタイヤに空気を入れに来店した時に点検を勧めても、断られることも多い。安全点検の目印である「のぼり旗」を掲げても点検依頼は少ない。店舗型では要整備箇所の車輪項目が拠点型の 11%に対し倍の 22%を占めます。それはパンク修理に来店した折に、勧められて安全点検を行うという修理のついでに点検をしてもらう人が多いからです。

要整備箇所の比率からは、ベル・ブザー、リフレクタ・尾灯が壊れていても乗り続ける人が多く、車輪、錠、ディレイラ、ペダル、サドルに不良を感じた時は修理のために来店することが分かります。

◎要整備箇所の比率



しかし、全体的には整備をせず、壊れていなければ乗ってしまう傾向にあります。要整備という状態を自覚していないこともかなり見受けられ、“点検の輪を広げていかなければと痛感している”という所見がありました。

「安全点検講習会」 学校、警察、地方公共団体等が参画する催事と連携して行います。

学校、警察や地方公共団体等が参画する各種催事と連携して自転車の選び方、日常点検・整備の重要性や正しい自転車の乗り方等を参加者に分かり易く、地域に密着した親しみ易い講習会が全国 332 会場で行われました。連携先は学校が 160 会場、警察が 59 会場、地方公共団体が 58 会場などでした。

講習会は複数の連携先が協力して開催していますので、絶対的な数値ではありませんが、地方公共団体を中心とする開催が増えています。自転車で快適に道路を走るためにはしっかりとした自転車の整備と正しい交通安全意識が前提となります。それを啓発する活動として講習会が開催され、参加した人の自転車を対象に拠点型安全点検も同時に行われることもあります。

小学生の講習会を中心に開催している地域では、小学生以降の安全意識の持続に懸念をいだきながらも確実な習得に力を注ぐ一方、保護者への参加も呼びかけています。参加対象は児童生徒から保護者、地域住民、老人会などの高齢者対象の講習会の開催も多くなりつつあります。

多くの参加者を募るために、宅急便のトラックを使用した死角の体験やスタントマンやダミー人形による事故再現デモンストレーション、危険箇所の発見を競うゲーム、ブレーキテストなどいろいろ考えた会場づくりが所見欄に記入されていました。ある会場では講習前には一時停止を 85%が無視していたが、講習後はそれが 10%に減ったり、左右後方確認の動作も繰り返す実技コースを走ることで確実にできるようになったり、公道を自転車で走る自信がついたと喜ぶ子供達がいちいち、それぞれの会場で成果を確認しました。

会場風景

拠点型安全点検》



店舗型安全点検》



安全点検講習会》



この事業は競輪の補助金を受けて実施しました。

[http:// ringring - keirin.jp](http://ringring-keirin.jp)

「平成21年度自転車安全点検全国普及活動」 実施報告書における実施団体の「事業の成果および所見」

「拠点型安全点検」実施報告書

◎点検をして品質に疑問がある自転車が多いので点検事業に限界があるという声も聞かれます。しかし、点検や講習会に熱心な学校、交通安全関係の期待に業界としても答えていきたいと考えております。
◎学校は先生方の指導もあるため、整備良好車が多く見受けられるが、街頭等で点検を実施すると、良好車が少ない状態になる。大人が乗る自転車に不良車が多く、点検カードを用いて来店を促しているが、成果は乏しい。
◎学校を中心に点検を実施、整備不良車が多すぎる。整備不良車に平気で乗っていることに不安を感じた。点検整備の必要性を指導。学校にも生徒への指導を要請しました。少数ではあるが学校で点検整備するところが出てきた。今までの成果と思う。
◎本事業の趣旨に賛同された学校・地方公共団体等からの要請により、自転車点検を実施した上で、その場で調整できるもの以外は自転車利用者に各自が整備店へ行かれるよう要請しております。
◎拠点型110会場では、学校関係が106会場と全体の96.4%、点検台数の総数17,606台に対し不良車は20.7%でした。実施場所は昨年度と比較して小学校5校少ない分中学校が4校多くなった。地域の自転車店は安全、安心と交通マナーを呼びかけた。
◎組合員の努力もあり、防犯登録証の貼付は100%近くまで普及してきている。新型インフルエンザの影響もあり、自転車点検の実施が中止になった学校も何件あった。
◎今回の集計を見ると防犯登録はある程度浸透したが、不良箇所の自転車整備がなされないのが残念です。自分の身は自分で守りたい。
◎総点検台数から良好車を見ますと62.8%と、完全に安全に整備された自転車は若干半分を超えるだけの数字である。現在BAA車の安全安心な自転車とポスターやチラシを配っているにもかかわらず、整備不良車は37%もありました。特にブレーキやチェーン及びライト等、事故と直接係わるものも少なくないことは残念であります。
◎8割の自転車が整備良好であった。
◎中学校の点検で、ブレーキ、ベル、タイヤ、チェーンの不良が目立った。特にタイヤの磨耗が多く、事故につながりやすいことを学校に伝え、要整備のものに対し必ず修理をするよう指導した。また最近では学校や父兄の理解が得られ易くなったように感ずる。
◎今年も学校・自治体からの要請により、点検を実施しました。ブレーキの甘いもの、ベル・錠の壊れているものが相変わらず多く、その場で整備できるものはできるだけ整備しました。
◎各支部に安全点検が定着しているようです。事業を行っていることが知られてきているようで、新しく依頼されてきている。
◎昨年に比べ、点検の台数は伸びており、整備良好車の台数も上がっている。本事業の成果が少しずつではあるが出ているのではないのでしょうか。また、ブレーキの調整については相変わらず多いのでメーカーの取扱説明書での耐久年数の統一や広報活動が必要ではないでしょうか。
◎安心安全であるべきはずの自転車のうち、6割強が整備不良車であったことを目の当たりにし、自転車の日常点検・整備の必要性を改めて感じさせられました。
◎総点検台数の内、整備不良は24.7%で、昨年度とほぼ同等でした。
◎安全点検も定着してきましたので、各学校から入学が済むと組合へ問合せがあります。学校によってはPTA役員も出て来て点検方法を見学するところもありますので、その場において調整をすると大変喜ばれるそうです。
◎点検後不良箇所が見つかった場合に来店して修理をする人が増えた。
◎毎年のことながらこの事業は組合の一事業として、今後も実施いたします。
◎学校関係者、警察、交通安全協会、地域ボランティア等、関係先多数の協力の下、安全点検と共に安全利用も含めた指導を行う等、組合員の利益行動とは反する事案もありますが、安全点検活動の基本的精神で、個人組合員にも協力していただきました。
◎計画回数に対してそれを上回ることができた。
◎ブレーキの効き、タイヤの空気圧、チェーンのゆるみなどの不具合が目立ちましたが、学校点検後に整備に来る生徒が少ないので、関係機関への働きかけが課題である。
◎点検台数の少ない小学校の会場等では、PTAの人や、地域の人自転車も点検した。本年は、例年のように、警察や地域の安全協会のご協力もあった。また、本年度も小学校のPTAの活動が多く、小学校の点検が多かった。ある支部では、高校からの依頼が多く、4人ではできないので6～7人で対応した。高校は、整備不良車が多かった。低価格車が大半を占め、修理しないで使用している現状だ。防犯登録の貼付は、相変わらず、県警の取締りが強化された支部は成果があがったが、子供車に付けないところは、改善されない。点検だけで終わらせないで要整備の自転車は整備を義務付けることができないものではないでしょうか。
◎早めに点検に来なく、乗りっぱなしのケースが多く、タイヤのゴムが減ってしまうまで乗り続け、ブレーキの効きが悪い自転車が見受けられた。
◎初めて点検を実施する小学校もあり、昨年より実施会場は多かった。しかし、自転車点検実施をしていない小学校等まだまだ沢山あると思う。身近な乗り物である自転車ゆえに点検の重要性を広く訴えたい。自転車を粗末に扱わず大切にしてもらいたい。
◎学校の統廃合及び通学車の減少、会員の高齢化により、実施回数及び点検台数の減少が多く見られた。応援体制をとっているが、毎年の課題となってきている。安全意識と点検整備に協力的な学校も増えつつあります。
◎警察本部より春・秋の全国交通安全運動の一環として行われた一斉の自転車安全指導キャンペーン及び地域安全運動への協力要請があり、各支部は自転車の安全点検を重点に実施した。
◎前年度より実施会場が減数になっていますが、TSマーク及び防犯登録のない自転車は減少傾向にあると思われます。来年度同事業が実施される場合は、今年度引き続き自転車安全普及に努めたいと思います。
◎学校においては通学車、警察及び交通安全協会との合同実施においては通行車両及び指定場所への持込等による点検と調整。
◎不良車は少なくなったがベル、ブレーキ、ライトの不良が目立つ、その場で修理できる箇所は調整し、後は自転車店で早く修理するよう注意する。
◎小中学校に対し文書による点検促進の効果で点検会場の増加がみられました。

◎本年度も各支部組合員の献身的努力で大きな成果を得ることができました。今後もこの社会奉仕事業を行い、業界の発展につなげたい。
◎年毎に児童数が減少し、点検台数も減っていますが、学校・PTAの方々のご協力で本年度も終えることができました。喜んでいただきました。
◎自転車は車のように車検が無いため、古くなると不良箇所が多くなる。簡単な修理はその場でできるので助かると思う。学校での点検は修理に来るが、街頭での点検は修理に来る人が少ない。
◎学校や地域で安全な自転車に乗ってもらうための自転車点検をずっと続けていますが、諸般の事情により実施が13会場となりました、よろしく願います。
◎例年の事業となっているので、学校側もよく心得ており、スムーズに行えた。
◎高校通学車の点検が減少したので一部の高校へ問合せると学校側としては、日々点検を受けて安全乗用の指導を重ねているが、接触事故も多く、一般の方からの苦情も多い。いくら安全点検をしてもらっても使用する側に問題があっては安全乗用にならない。今度もハード面(安全な車両)ソフト面についても指導願いたいとの声があった。
◎学校側が交通安全に力を入れているところは整備ができていますが、そうでない学校は要整備自転車が見つかったも修理をあまりしない。安全安心の自転車に乗るよう指導をして行きたいと思います。
◎新規の学校の依頼が2件あり、大変喜ばれた。来年度も点検の依頼を受けた。安全点検普及活動の推進に今後とも努めたい。
◎今年度におきましては、点検会場数が増えましたが、持ち込まれる自転車の数が少なく地区ごとに分散されたのでしょうか？また、量販店から購入されたものが大半である。参加された延べ人員数は、幾分多くなったようで関心度が高まりつつあり、よい傾向にあると思われまます。
◎例年通り学校やPTAなどの要請で79会場の実施となった。なかなか整備料金の集金ができないために、全ての自転車の整備を行うことは難しい。点検整備の重要性に気づいていただくことも大事なことである。保護者ももっと積極的に点検にも参加されることが望ましい。
◎各学校での点検台数が少子化により、年々減少してきた。また、点検要望は多々あるが、基本台数40台に満たない会場の実施報告書もあり、苦慮している。
◎例年どおりの点検に加え、今年度は点検後の安全整備を徹底してもらうことに重点をおいた。学校当局とPTA役員の方々に協力をいただき、点検後に点検カードの回収を完全にしてもらって、事故を未然に防止することに努めた。その結果、点検を実施した学校での登下校時の無事故を達成できた。

「店舗型安全点検」実施報告書

◎安全対策、販売店の事業活性化のため、店舗型点検事業を実施しても、実際に取り組む販売店が少ない。また、実施しても慣れないため声かけを忘れてたりして成果につながらないのが現状です。お客様に不良箇所を指摘しても料金のかかることは難しいところです。
◎店舗型点検を実施することで、点検だけではなく、防犯登録、TSマークの貼付に対しても目が行き届き、来店者への声掛けがしやすくなったと感じられる。
◎短時間で言う学校点検はユーザーの顔が見えない。店舗での点検はユーザーと対話ができ、点検整備等丁寧に説明ができ、有意義であった。次年度も店舗型を実施できるよう要望した。
◎自転車利用者に対して乗用安全の意識を高めるため、各自転車店において自転車各部の安全点検を実施したうえで、要整備箇所はその場での整備を促し実施できました。
◎店舗型点検結果は総台数に対し整備良好車が全体の23%、整備不良車が77%で今年は7会場28店舗が参加しました。ユーザーが整備箇所の控えを持つことで、今後來店時の参考になり、安全点検、安心の大切さの助言に役立ちユーザーの自転車に対する関心、信用にもつながると思います。
◎タイヤの空気が抜けている状態に乗っている人が多数いるので、整備良好車という自転車はなかった。
◎市発行の広報誌に掲載されることにより、市内全域に自転車店の活動が紹介され、自転車の普及と併せて点検を実施することにより交通マナーの向上と交通事故防止に寄与した。
◎山間部及び市内中心部においては自転車利用者が少ないため、来店者を対象とするのに苦心いたしました。また、常時乗用している割には点検整備がなされておらず、タイヤの減りやブレーキ、チェーン、ライトの不良箇所が多く、自転車事故の原因となりがねない。この点検事業をもう少し広く呼びかけ高齢者の乗用自転車の点検も実施していきたい。
◎8割ちかくの整備不良車がある中、自転車事故を減らすため、より一層の努力が必要であると感じた。
◎全体的整備不良車が非常に多く、安全に対する考えがまだまだ少ないと思われる。
◎ブレーキの不良とチェーンのたるみが目立ち、タイヤの空気の少ないものが多かった。日常の点検整備の重要性をユーザーに伝えることができた。
◎無料点検中の「のぼり旗」を掲示していても、それを意識しての来店者は無い。どこかの不良箇所の修理目的の来店者がほとんどで、不良箇所の修理ついでに、他の箇所の不具合が無いか、点検を行った。点検のPRのあり方を立案しながら、取組まねばと思います。
◎今日、価格を重視して自転車を購入した場合、点検・整備を回避するユーザーが多くなっています。自転車事故等のニュースの会話では耳を傾ける方もあり、安全乗用に対する潜在意識も察知されます。今後、安全利用の促進に鑑み、交通事故や製品欠陥事故例を掲げ、事故の恐さの認識度アップに努めたいです。
◎各支部とも組合員店の積極的な参加によって予定数を上回る参加店舗数となった。店舗での丁寧な点検・整備の実施により、日常の点検・整備の重要性について自転車乗用者の認識を深め、さらには利用者の安全意識の高揚を図る役割を担うことができた。
◎店舗所在地によって点検台数にばらつきがあり、自転車の減少傾向が郊外にはあるところですが、今後も、自転車に乗られるお客様の安全を第一に点検活動を続けていきたいと思います。
◎店頭における実施は安全点検をアピールし、店舗のイメージアップにもなり大変有効である。
◎無料点検なので、お客様に喜んでいただけました。その場で要整備箇所が整備できる点が良いです。
◎伝統的に拠点型点検活動になっているので店舗型はなかなか受け入れられない。しかし、整備士の高齢化問題もあり今後も普及に努力したい。
◎整備不良の自転車をそのまま乗っているケースが多く、今後も点検や整備をすすめる必要があると思いました。

◎どの会場も長い間点検をしていない自転車が多く見受けられた。また、平成20年の道路交通法及び同施行令の改正によって点検に来た人も多かった。拠点型も大切であるが店舗でもっと点検の輪を広げていかなければと痛感した。
◎修理の目的で点検に来られた方も多かった。事故防止のためにも、点検の呼びかけに今後も努力したい。
◎店舗型安全点検が始められてから各店舗へのユーザーの出入りが多くなり、交流が深まっているように思われます。昨今、多発している事故に対して交通安全の意義を専門店の責任として、自転車販売促進と同時に努めていかなければならないのではないかと考えさせられます。
◎整備不良車が非常に多い。拠点型に比べ目的を持って来店するので、整備する確立は高くなるがユーザーの安全性への認識がもっと広がっていくことを望みたい。ブレーキの整備不良が際立って目立っているようである。
◎店舗型安全点検実施は即メリットです。

「安全点検講習会」実施報告書

◎講習会に熱心な地区は学校、警察、安全協会、町内会等が一丸となって取り組んでおり、他の地区にも波及するよう、学校長宛の文書を作成していますが、なかなか成果につながりません。中学・高校生が自転車に乗っていて歩行者を死亡させた事例があり、乗り方指導は重要と思われる。
◎午前は自動車コースを利用しての実技。午後は講習室での筆記と講習会となっている。また、今年度はヘルメット着用により自転車の事故の際の被害軽減を訴えた。
◎中心地にある老舗前で実施。デパートの協力もあり毎年実施したいと思っている。講習会は1日2回2日間実施し、自転車の点検と安全走行の講習等で自転車の利便性、点検の必要性等理解を得た。
◎自転車の安全対策の向上を図るため、学校・警察・自治体・町内会等主催する各種催事に協力し、自転車の選び方、点検整備、正しい乗り方の指導を行い、各会場とも交通マナーや安全に対し、積極的に取り組み実行性のある指導効果ができたようです。
◎今年度の講習会は小学校、中学校、高校を県北から県南の3校で実施しました。生徒たちには、交通安全に対する意識を高め、安全に登下校ができるように地域全体で連携し協力してくれる警察や指導隊員、地域の方々に感謝の気持ちをもって、安全・安心な自転車に乗って交通ルールをしっかりと守っていただきたい。そのために、自転車店は地域の顔として欠かせない存在としてつながっています。
◎自転車組合、支部では町内会を中心に三町内会合同で安全点検講習会を実施した。自転車点検を行い、後で、道路交通法に基づき乗るときの注意、ルールを説明。実際に自転車に乗り体験。大変勉強になったと思う。
◎自転車に興味を持ち始める小学生の児童等に校庭で走行テスト、公道利用による走行練習と自分でできる点検方法、交通ルール、走行マナー等の指導を実施し、学校側から感謝され、子供たちからも喜ばれました。
◎日頃からの点検がどれだけ重要であるかを強く訴え、認識してもらい(特にPTA)講習会を実施した。子供たちはちょっとした講習ですばらしい上達を見ることができ、この講習会がいかに大事であるか、また続けなければならないか痛感した。
◎今年は各支部も講習会の要請がかなり減りました。大きなイベントで、地方公共団体・警察・組合本部・支部が協力し点検講習会と乗り方、ルール説明等をし、自転車の良さをアピールしました。
◎本年度は昨年度から15会場増え、活発に行われたようです。また、幼児2人同乗用自転車についての乗り方教室が各地で実施されました。
◎実施会場数は13で昨年より2会場増えました。交通ルールやマナーを守り、また構造や仕組みを理解させ、環境と健康に優れた自転車をより一層楽しく利用し、促進する良い機会でした。
◎講習会において自転車の仕組みを説明し、点検の大切さを訴えた。点検整備された自転車に乗車することで自転車事故を未然に防ぐことにつながった。
◎支部組合員参加のもと自転車の正しい乗り方、交通ルールの講話をした。実技指導では、信号のある交差点の曲がり方、T字路の曲がり方を指導し、交通安全の意識が高まる安全利用の講習会を実施した。
◎各支部、各地区において講習会を開催した。各学校、子ども会、老人クラブ等とともに熱心に受講し、意義ある講習会であった。今後共、継続してこのような講習会を実施してほしいとの要望が多数の地区から寄せられた。
◎2会場とも、3支部合同での実施で、地元警察署及び交通安全協会からも来ていただき、特に高等学校での講習会は、在校生の多くが通学に自転車を活用しており、指導に当たる学校関係者(先生・PTA・生徒代表)に対し、交通安全と悪い事例(携帯の操作しながら等)を交え、自転車の正しい乗り方などの講習を行いました。
◎幼児、小学校低学年向けの自転車教室は将来社会全体の交通安全対策につながるからとても意義がある。
◎子供たちや高齢者の自転車による事故の防止のため、安全な走行に必要な点検整備について説明する。走行時のマナーやルールについても講習し、理解されたものと思われる。
◎従来からの支部(サイクリング実施の際)と、地方公共団体のシルバー人材センターより自転車安全点検の講習の依頼があったので、その会場で安全点検と簡単な修理の講習会も実施しました。また、他の支部でも、学校での安全点検の時は、学校のPTAの協力の下に、小集会を実施し、参加者に冊子やリーフレット等を配り、自転車利用者の交通ルール無視や、マナーの悪さを注意し、交通安全の大切なことを指導しました。
◎自転車の通行等に関するルールが改正され関心も深く、そのことに関する質問があり、たいへん有意義だったと思われる。
◎昨年度開催しました各地域での小学生対象講習会を本年も予定していましたが、先生の異動で開催認可を頂けず断念。しかし、その支部長は1会場でも講習会を通じて子供達が自転車に対する愛着心を持って乗用してほしい一心で実施しました。近年、タイヤやブレーキ点検している子供は殆どなく、タイヤの空気不足も多く見受けられました。警察より交通ルールを含め自転車事故の恐さを伝えると共に、安全・安心な自転車の推進に努めました。今後も、地元自転車店での点検・整備がユーザーに浸透するようPR作戦等を実施します。
◎通行する自転車利用者に日常の点検整備と自転車の交通ルール・マナーについて一人一人訴えることができ、一応の成果があった。交通安全母の会連合会・研修会(80名出席)において、交通安全ルールについて図解と自転車を用いて開催した。アンケート等により「今まで知らなかったことをたくさん教えていただいて、これから自分の地域での交通安全教室等に役立てたい」との意見もあり、開催の意義と成果があったと感じた。
◎全国交通安全運動の一環として高齢者や小学生を対象として交通安全教育行事と連携して、自転車の正しい乗り方と点検・整備について実演によるわかりやすい講習を実施し、自転車利用者の安全意識の向上と点検整備の励行の重要性についての認識を深めることができた。今後も、自治体・学校等との連携により継続的に講習会を実施し、自転車の安全利用の推進に努めたい。
◎昨年度に引き続き講習会に参加させていただいた地域もありますが、今年度は組合総件数としては減少しました。今後は、地域の方々との連携をとり少しでも地域活動貢献ができるように取組みたいと思っています。

<p>◎警察、交通安全協会との連携事業として実施。自転車の安全利用などについて講義する。安全指導員、交通安全母の会、教員等の参加を得て実施。継続事業としての希望を受ける。</p>
<p>◎「自転車の楽しく安全な乗り方」小冊子を配り、警察の協力を得て、正しい乗り方やマナー、交通ルール等の講習をした。学校、父兄の方々より感謝された。</p>
<p>◎警察、PTAの協力で実施しました。1人ずつ自転車を使用して実施できたので分かり易かったです。</p>
<p>◎毎年実施することが期待されており、学校他各種団体と連携実施している。今後もこのような草の根的な活動が重要と思われる。</p>
<p>◎学校、PTAの方が交通安全教育に力を入れておられ、講師の方も喜んでいますが、残念なのは児童の減少です。また、雨天のため中止になり4会場になりました。</p>
<p>◎講習会を毎年実施している小中学校では交通ルールを守っているようで事故が無い。自転車運転マナーは講習会を繰返すことにより将来事故も減少すると思う。高齢者は車から自転車に切り替える時に交通ルールも切り替えて欲しく、判断力にもぶっているため講習をするべきだと思う。</p>
<p>◎道路交通法一部改正に伴う幼児2人同乗用自転車の安全運転講習会があり、各関係機関と連携して自転車の乗り方やマナーなどの指導に努めた。</p>
<p>◎当地は高齢者が多い上、国道と県道が交差しているため、特に自転車による事故の発生が多い。交通指導員の指示に沿って指導し、自転車の点検等についても念入りに講習した。高齢者の事故防止交通マナーの向上のためにも講習会の必要性を感じた。</p>
<p>◎小学校より昨年度初めて実施した交通教室のお蔭で自転車の事故が(大きくはないが)減少したので、今年度も実施してほしいと要望があり、定期的に講習会を実施した。昨年度、この講習会に参加した生徒が今年も参加しており「交通ルールをしっかり守っています」と講習を受けていた。また、生徒の中から「必ず1年に1度は点検を受けています」との声も聞かれ、この講習会も少しずつ地域に定着したのだと痛感した。サイクリストも年々増加し大会への参加者も増加している中で事前の点検もしていないし、安全乗用のノウハウを心得てない者が大半であることから、サイクリング協会より交通指導の要請を受けて講習をした。自転車の交通ルールが改正されたことや安全利用5則を守るよう説明したところ、これらのことを初めて知ったと言うサイクリストが多かったのも少し役に立つのではと痛感した。事故を未然に防いで楽しいサイクリングができるようこれからもこのような講習会を実施していこうと話合った。</p>
<p>◎親子の交通安全教室を開催し幼児車、子供車、大人車の点検を行い、同時に自転車の正しい乗り方教室等も行い大変好評を得ました。来年度も当事業への開催の希望があり成果を出すことができました。</p>
<p>◎恒例の指導員講習会が開催された。当組合からは受講生及び講師、実技指導のスタッフを出動し、交通安全の普及に貢献する人員の育成にあたった。自転車の点検整備の時間は理事長が自転車の点検不良箇所を速やかに見つけられるように説明を行った。県下一円から参加された受講生が地元に戻られて、本日の講習を実施に生かされるよう希望したいと思う。</p>
<p>◎安全点検は各高等学校を通し、保護者会(PTA)への呼びかけが、最も成果が上がると思います。</p>
<p>◎今年度は自転車の安全利用に関する法的な違反と罰則を重点的に講習して、今後サイクリストが指導者として、一般の自転車利用者に対して指導してもらいたいとお願いをした。このことにより、自転車事故を少しでも減少させられればと願っています。参加者全員が熱心に研修したことにより、必ず成果が得られると考えています。</p>